

すべての子どもが学ぶ喜びをもつ授業づくり

～「つながる」「わかる」「できる」子どもの育成を目指して～

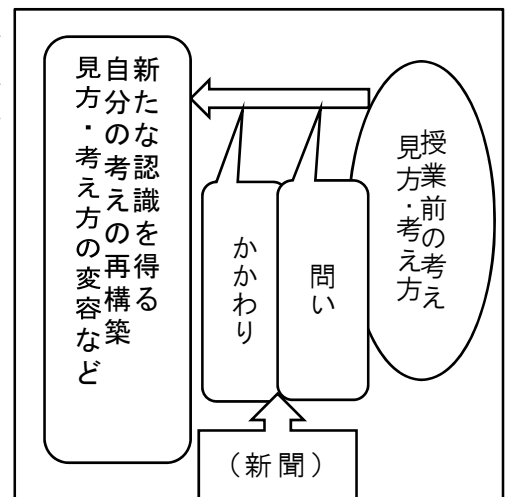
新潟市立浜浦小学校

1 NIE実践のねらい

今年度も昨年度と同様に「すべての子どもが学ぶ喜びをもつ授業づくり」を研究主題に設定し、「問い」「かかわり」「振り返り作文」を1単位時間の枠組みとして授業実践を行った。特に、思考力を働かせて「かかわり」ながら、「学びを深める」学習を重視した。当校における「学びを深める姿」とは、子どもが「問い」「子どもが「かかわり」のある授業を通して、自分の考えに新たな認識を加えたり、見方・考え方を変容したり、他者との比較から自分の考えを再構築したりするなど、自分の考えの質的な変容及び構造化を意味する。

指定校2年目の今年度も、新聞は、そのような授業を目指すための手立ての一つと考えて位置付けている。昨年度の研究の成果から新聞は「問い」をもつ場面、「問い」を解決するための見通しをもつ場面、「かかわり」の場面など、様々な場面で活用することができた。また、新聞の提示の仕方を工夫したり、記事の内容を精選したりすれば、1年生から6年生までどの学年でも活用することができることも分かった。

今年度も、授業のねらいを達成し、子どもたちの「学びを深める」ために新聞の効果的な活用方法を実践を通して探っていきたい。



2 本年度の実践の概要

(1) 新聞に親しむための活動

① HAMAURATIME (NIE タイム) の実施

毎週火曜日の朝 (8:15~8:30) を HAMAURATIME として、新聞を活用した学習を継続的に行った。ねらいは次の通りである。

- 新聞を読む機会を増やし、新聞に親しむ。
- 授業で新聞を活用できるように、新聞を読む力を付ける。

新潟県 NIE 推進協議会から出版されている「学力を高める新聞遊び」を参考に以下のような取組例を示し、各学年の実態に応じて取り組んだ。

学年	内 容
共通取組	・新聞記事スクラップ（ワ） - 低学年：写真 中学年：見出し，小学生新聞 - 高学年：一般紙
低学年	<新聞を楽しむ> ・新聞読み聞かせ ・言葉探し ・新聞しりとり ・ことばの貯金箱 ・4コママンガジグソーパズル
中学年	<新聞記事に親しむ> ・新聞スピーチ（ワ） ・新聞ツイッター（ワ） ・見出しビンゴ（ワ） ・見出しを考えよう（整理部デスク）
高学年	<新聞記事を読み深める> ・新聞スピーチ（ワ） ・5W1H（ワ） ・新聞記事感想文 ・意見を投稿しよう（ワ）

低学年は「新聞を楽しむ」，中学年は「新聞記事に親しむ」，高学年は「新聞記事を読み深める」ことをテーマに，それぞれの学年で工夫した取組が行われた。

右の写真は，低学年が新潟日報「ふむふむ」の中から，「片仮名」の言葉を探すゲームをしているところである。子どもたちは，新聞は難しいというイメージをもっているが，ゲーム的な活動を通して，「新聞でも遊べる」「新聞は楽しい」というイメージをもち，自主学習で取り組む子どももいた。



② 新聞スクラップコンテスト・新聞記事感想文コンクールへの応募

5・6年生全員が夏休みの課題として新聞記事感想文コンクールに挑戦している。夏休み前には，過去の優秀作品を参考にしながら，記事の選び方，感想文の書き方などを指導している。この取組は，10年以上続いており，団体賞も多く受賞している。また，新聞スクラップコンテストに挑戦した子どもも多く，今年度は団体賞を受賞した。

（２） 授業の中での新聞活用

校内研修グループの中に「NIEグループ」を設置し，NIEグループを中心に，様々な教科で新聞を活用した授業を実践した。研究授業として

実施した実践は以下のとおりである。

学年	教科	単元名等
2	生活科	わたしの町 大すき
3	社会	火事からまちを守る
5	社会	水産業のさかんな地域
5	道徳	小さな国際親善大使
あおぞら	生活単元	「新聞作り」をしよう

また、昨年度の研究授業の実践である2年生道徳の「クラス大変身」、5年生道徳の「撮影、観光マナーを守って」を追試するなど、昨年度の研究の成果を生かした実践も行われた。

3 実践例

<実践例 1>

(1) 2年 生活科

単元名 わたしの町 大すき

(2) ねらい

2回目の町探検について、新聞記事に書かれている働く人々の気持ちを読み取ることを通して、「人」に関する「すてき」を探る質問内容を考えることができる。

(3) 本時の手立て

① 問い

「人」のすてきが分かるにはどんなことを聞くとよいだろうか。

【問いを引き出すための手立て】

1回目の探検では、「人」のすてきを発見することができなかったもので、1回目と同じように自分の思いつくまま質問しても「人」のすてきを見付けてくることはできないと気付かせる。

② 学びを深めるための手立て

新聞記事「お仕事ファイル」を読んで、お店の「人」のすてきだと思うところを探させる。

<使用した新聞記事>

新潟日報ふむふむ「お仕事ファイル」

・僧侶 ・和菓子職人 ・警備員 ・美容師 ・銀行員 ・日本料理人
・スーパーの店員 ・花屋さん ・シェフ

③ 学びの深まった姿

新聞記事をもとに考えた、1回目の探検とは、違った「人」に関する質問を考えている姿

(4) 授業の実際



導入では、1回目の町探検で見付けてきたみんなに知らせたい「すてき」を発表した。付箋に貼り出された「すてき」を見てみると、子どもたちは、「人」に関する「すてき」が少ないことに気付いた。そこで、教師が『人』のすてきは本当はないのかな。」とゆさぶりをかけた。すると、「人のすてきはあると思うけど、僕た

ちが見付けられていない。」「1回目と同じように聞いても、人のすてきは見付けられない。」と気付いた。「どんなことを質問すれば、人のすてきを見付けることができるのか。」と問いをもった子どもたちに、事前に配布してあった様々な職業の「人」を紹介する新聞記事の中から「人」のすてきだなと思うところを探すように働きかけた。子どもたちは、「トリマーさんは、『怖がらないように声を掛けて、手入りを嫌がらないように気を付けている』って書いてあるよ。優しいね。」や「パン職人は、『旬の果物や野菜を使い季節を味わう工夫』をしているんだね。」など、様々な「すてき」を新聞記事から探した。新聞記事から、人の「すてき」は、「気を付けていること」、「やりがいを感じること」、「目標にしていること」だと気付いた子どもたちは、次のような質問を考えた。

【A児】美容室

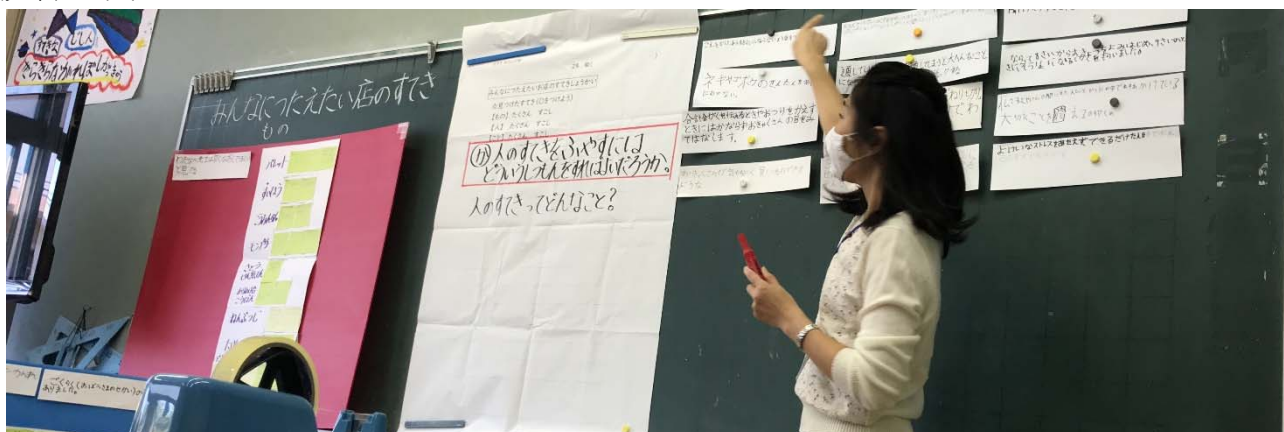
美容師の仕事で、大切にしていることや気を付けていること何ですか。

(5) 新聞活用について

2年生には、なかなか情報量の多い新聞記事であったため、以下のような配慮をした。

- ① 全員に共通の記事を配布し、新聞の読み方や内容の捉え方を事前に指導した。
- ② 各探検場所に合わせた新聞記事子どもたちに配布した。そして、自分たちが探検してきたことと似ていることや異なることがないのかを探しながら、新聞記事を読み取る時間を設けた。

<板書写真>



<実践例 2>

(1) 5年 特別な教科道德 題材名「小さな国際親善大使」

【主題】他国の人々を理解して

【内容項目】C (国際理解, 国際親善)

(2) ねらい

国ごとに様々な違いがあること, 他国の習慣や文化を理解することの大切さを考えることを通して, 他国への関心や理解を深め, 相互に尊重し合いながら, 国際親善に努めようとする実践意欲を育てる。

(3) 本時の手立て

① 問い

どうしてこんなトラブルが起きてしまうのだろう？

【問いを引き出すための手立て】

ニュージーランドの先住民マオリの女性が入れ墨を理由に入浴を断られた新聞記事を読み, 自分の立場を明確にし考えを交流する。

② 学びを深めるための手立て

新聞記事のその後の展開を読み, 自分たちが話し合っていた内容について理解を深める。

<使用した新聞記事>

2013年9月25日 新潟日報「外国人も『郷に従え』？」

③ 学びの深まった姿

世界には様々な習慣や文化があることを理解し, それらを認めていこうとする姿

(4) 授業の実際



本時の始め, 中国と日本の食文化の違いを通して, 各国で習慣や文化が違うことを確認し, お互い認め合っていくこと, 国際親善について共通理解した。そしてマオリ族の女性が, 温泉で入浴を断られた新聞記事を読み, マオリ族の女性の気持ちと, 断った人の気持ちを考えることを通して, 心情面のズレを生ませた。その際, 温泉にマオリ族の女性が入ってきたらどんな気持ちになるかを書かせた。ほとんどの子どもが「怖い」「先に出る」といった否定的な考え方であった。

しかし, 導入で出てきた国際親善の大切さをもう一度確認し, このままではいけないのではという思いにさせ, 解決策を考えるようにした。終盤では, 新聞記事のその後を読み, 自分たちが考えたアイデアが記事の内容とリンクしていることを確認し価値付けた。

上記の活動を通し、振り返り作文では、子どもたちは次のように記述していた。

【A児】

海外の文化を否定してばかりいると、「日本は悪い国なの？」とか「日本にもう行きたくない」と思う人が出てしまうかもしれない。だから海外の文化もちゃんと受け入れないといけない。でもちゃんと海外にも日本の文化を知ってもらうことも大切だと思う。

【B児】

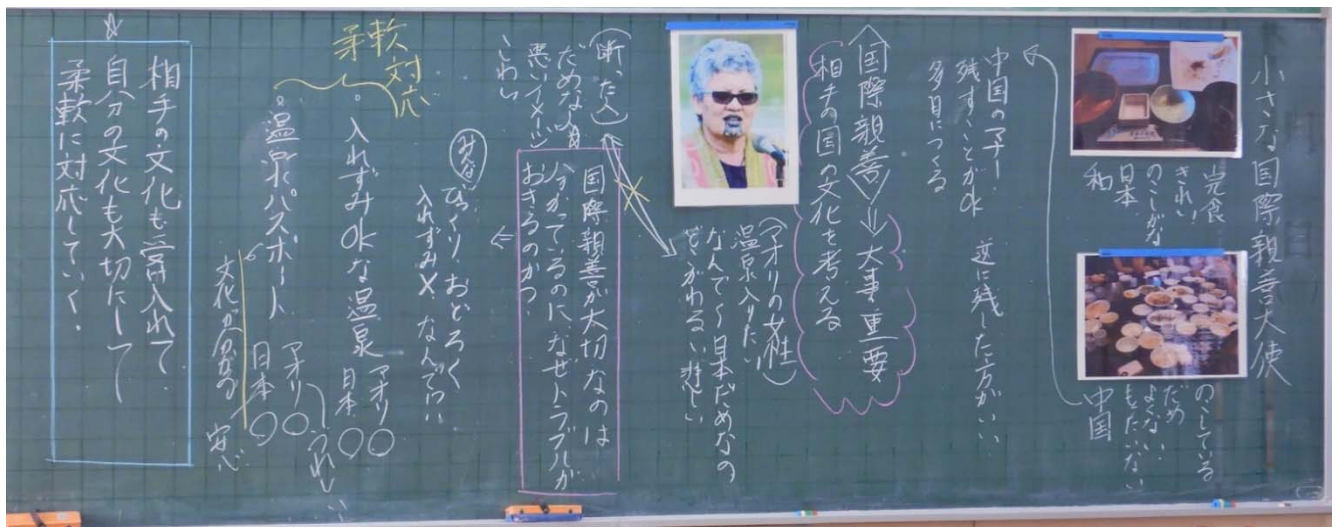
最初は、怖いとか考えていたけど、外国の文化を知ることで、納得し相手と関われると思います。なので私は自分が住んでいる国の文化だけで判断せずに、相手の文化を取り入れて考えていきたいと思います。

(5) 新聞活用について

問題提起型の新聞記事を活用することで、子どもたちの心情面にズレを生ませることができ、子どもたちが活発に話し合いながら、学びを深めることができたと考える。そして、初めの考えをノートに記述することで、子どもたちはしっかりと自分の変容を感じることができた。

しかし、終盤での新聞記事は子どもの思考を深めるために有功だったかという点、少し物足りない感じがする。記事内容と子どもの思考と教科書内容を精選していかなければならない。

<最終板書>



4 成果

2年間の研究を通して、「学びを深めるため」に新聞は授業の様々な場面で活用できることが分かった。特に今年度は、問題解決の過程で活用することを試みた。新聞を授業で有効に活用するためには、子どもたちに新聞を読む力を付ける必要がある。そのためには、日常的に新聞を読む機会が重要である。そうすることで、新聞を読む力を付けるだけでなく、新聞に親しみ、新聞から学ぼうとする子どもたちが増えてくるのである。(平野 俊郎)